

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村学力調査の問題内容では、「漢字を書く」の目標値 66.7%に対して、校内正答率 88.9%だった。 ・村学力調査の問題内容では、「文章を書く」の目標値 56.3%に対して、校内正答率 33.3%だった。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「漢字を書く」については、令和3年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。 ・「文章を書く」については、「文の成分や構成について、日常の会話文を通して文脈の中での働きを理解させ、文章の中で使うことができるように指導する。」という改善プランを作成した。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「漢字を書く」では、漢字の書き取りや短文作成を計画的に行っている。 ・「文章を書く」では、書いた文章を発表したり交流したりする活動を行っている。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①漢字の書き取りの習熟度を確認し、個別最適な支援を実践する。</p> <p>②文章を書く習熟度を計画的に確認し、交流を通して見方・考え方を広げる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①村学力調査の結果で、「漢字を書く」の問題項目の校内正答率が、目標値を5%以上上回っているか確認する。</p> <p>②村学力調査の閣下で、「文章を書く」の問題項目の校内正答率が、目標値を5%以上上回っているか確認する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>村学力調査の結果で「漢字を書く」の問題項目の校内正答率が、目標値を20%以上上回った。</p> <p>2学期の授業評価アンケートにおいて、「文章を書く」ことに66%の生徒が前向きな意見を記述し、意欲を高めていた。</p> <p><課題></p> <p>村学力調査の結果で「漢字を読む」「文章を書く」の問題項目の校内正答率が、目標値を20%以上下回った。</p>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動と感想文や意見文を書く活動を通して「漢字を読む」「文章を書く」の学習を関連付けた学習指導を実践する。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>「漢字を書く」ことや「文章を書く」ことに対する意欲が、らせん的に学力向上に結び付く生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <p>基本的な知識理解が不足している領域がある。</p> <p>例1 歴史科「江戸時代」地理科「日本の諸地域」における問いの正答率が約33%であった。 ただし、基礎問題の正答率はおおむね良好な状態である。 (令和5年度 小笠原村学力調査の結果 参照)</p> <p>例2 令和5年度本校教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」について、「あまりあてはまらない」33% (3名中 1名)</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>①生徒の思考・判断・表現力の育成に向けた授業構成</p> <p>②生徒が地球的視野から物事を考えることができるための授業計画の構成</p> <p>⇒ 上記した学力調査の結果から、知識理解が不足しているためこれらの改善も同時にされていないことが分かる。(基本的な知識理解がなければ、①・②は達成できない)</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p>前提として、『わかる』から『できる』を体感する授業の実現のためには、まず『わからなくてはいけない』(上記した本校アンケート結果参照)よって、『わかる』ための工夫を以下に記す。</p> <p>①毎授業ごとの自己評価を実施。小項目ごとに理解度を記述させ、指導者から必ずフィードバックを行っている。</p> <p>②知識理解を高めるためにワークブックを利用した反復学習を行っている。なお、その際には丁寧に個別指導を実施し、「わかる」まで指導を行っている。 これらの指導・工夫を継続することで、社会科における基本的な知識理解が得られる(網羅できる)と考える</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①上記 2 (2) ①・②記した工夫を継続する。</p> <p>②後期授業評価アンケートを実施する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①②に共通して</p> <p>・後期授業評価アンケートの結果分析 (理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%を目指す)</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><課題></p> <p>・上記アンケート結果に変化なし。 (「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」について、「あまりあてはまらない」33% (3名中 1名)【R5年度 後期アンケート結果】)</p>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>・特になし。</p>
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>多面的・多角的な見方や考え方をもち、世の中の出来事に関心と意見を抱き続ける生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 数学科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・3年生数学を見ると、全国平均を上回り、たいへん良好な状況であるが、「データの分布の傾向」と「証明」に課題がある。また、観点の「知識・技能」については前年度同様、全国平均を10ポイント以上上回っている。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">①百分率、割合や分数など基礎基本的な知識の定着②基礎基本的な知識や技能を活用し、表現をする力③グラフなど資料を読み取る力。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・「展開・因数分解」の単元において、記述しながらの演習の前にクイズ形式での理解を促す計算トレーニング。・「2次方程式の単元」において、ホワイトボードを使用した教え合い活動。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していく主体的に学習に取り組む態度を育成する。②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①小テスト<ul style="list-style-type: none">・実施前と後に行い、定着度を確認する。②ホワイトボードやジャムボードを用いた発表<ul style="list-style-type: none">・発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>小テストで知識・技能、発表で思考・判断・表現を主に検証し、理解度が増し、上手に伝えることができるようになってきた。</p> <p><課題></p> <p>計算ミスなど、細かいところでのミスが目立つ。</p>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・途中式など過程での集中力を保つよう指導する。・理解した知識・技能を説明する際に使用するよう促す。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>主体的に学習に取り組み、思考・判断・表現を必要とする問題に取り組み、またそれを級友と教え合えることができる生徒。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 令和5年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「植物のからだのつくりとはたらき」の正答率は11.1%、「化学変化と物質の質量」の正答率は22.2%と突出して低かった。 ・図、表、グラフ等の資料を読み取る問いに関しては、この単元のみならず全般的に課題が見られる。 ・「活用」の正答率が26.7%であり、日常生活と知識の関連付けが課題である。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題演習を多く取り入れ、個別・グループ・個別のサイクルで取り組ませ、考える時間を十分に保障する。文章問題から読み取り、整理し、問題を解く活動を取り入れ、文章読解力、表現力を高められるように支援する。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「植物のからだのつくりとはたらき」は中学校1年生、「化学変化と物質の質量」は中学校2年生で学習している。復習として、3年間の復習教材を個々の能力に応じ補充する。 ・高校入試対策問題から思考・応用する問題演習に取り組むことで、活用を身に付ける。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>① 3年間の復習教材を個々の能力に応じ補充する。</p> <p>② 高校入試対策問題から思考・応用する問題演習に取り組むことで、活用を身に付ける。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>① 年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>② 年間15回程度の小テストと年間3回の定期考査を実施した内容の分析</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章問題から文章読解力、表現力を高めることができた。 ・入試対策の形式にも慣れ、知識を活用する力を身に付けることができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身に付けた知識を活用し、理科的の専門的な用語を用いて説明する力に課題が見られた。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元ごと基礎知識を身に付け、要点をまとめるだけでなく、内容に対する自分の考えや科学的根拠に基づいてディベートを行うなど、言語活動の機会を設定する。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然事物・事象に興味をもち、専門的な知識の向上にむけて意欲的に学習できる生徒。 	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

今年度の授業評価アンケートにおいて、「興味・関心」に項目に関して、A・B合わせて100%となっている。理解度に関してもA・B合わせて100%になっており、昨年度と比較すると音楽に対する姿勢に変化が表れたようである。

歌唱・器楽・創作・鑑賞の4つの分野がすべてつながっているという意識が薄いため、培ってきた知識を生かして音楽を“味わう”“体感する”という経験が少なかった。そのため、わかったことを生かす場所もなかったため、「できる」というところまでつながらなかった。

昨年度は作曲者の立場に立った視点から「わかる」から「できる」を体感するよう授業を意識した。引き続き、作曲者の視点に立ったうえで、今年度は歌唱分野に力を入れていく。数年間、歌唱表現を十分に行える環境ではなかったため、発声や表現に課題がある。生徒が興味をもっている分野をさらに発展させ、自信をもち、「わかる」から「できる」を体感できる授業を行っていく。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

「音の重なりや組み合わせの変化を感受し活用する力」を身に付けることが課題となっており、改善策として、音の組み合わせを試行錯誤する時間を設け、音の変化や特徴について個の作品に応じた指導をするとなっている。その結果、個に応じた指導によって、作品に対する見方・考え方を広げることができたようである。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

歌唱分野において、昨年度の創作分野で学習したことを意識し、歌唱に取り組んでいる。昨年度は自身が作詞・作曲者の立場に立ったので、どの部分が山場なのかを作曲者目線で考えることができている。表現活動につながっている。また、鑑賞分野で学んだ知識を生かし創作活動に取り入れており、理解したことを作品に反映させられる機会を設け、「できる」を体感させていく。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①授業内の実技発表を実施する。
- ②フォームを使ったアンケートを実施する。

＜検証方法＞

- ①授業内での実技発表の分析
- ②授業内で行ったアンケートの分析

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

歌唱分野に不安があったものの、身振り手振りを交えた発声法を実施した。また、良いところを伸ばせる言葉がけを行いながら歌唱活動をした結果、大きな声、正しい発声法で歌唱することができ、人前で歌う自信にもつながった。

＜課題＞

「これですべてできている」と思い、成長が止まってしまうことがあった。

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・すべての分野において、作詞者や作曲者の立場に立った視点で音楽を捉えるように指導した。今後もそのような視点をもって音楽に親しみ人生を豊かなものにしていくよう指導していく。

6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿

音楽に触れることによって人生が豊かになっていくことを実感できる生徒。

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 美術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度前期授業評価アンケートでは、「美術科の学習を通して、この教科への興味・関心を高めることができるか」という項目に関して、67%が「あてはまる」、33%が「だいたいあてはまる」と回答している。また、「この教科の学習内容について、現在どの程度、理解しているか」という項目に関しては、33%が「100～75%」、67%が「50～25%」と回答している。以上の調査や授業観察の結果から、授業への興味・関心は高いといえるが、学習内容の理解や確実な定着については課題が見られる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 【課題】発想や構想をしたことを見直したり修正を加えたりして、創意工夫をしながら循環的に高めていく態度。 【改善策】学習過程の中で、よりよいものとして具体化していくことの大切さを学ばせ、いろいろ発想しながら構想を練り、思い切って挑戦してみる環境を整える。 【評価】作品制作の初期段階の構想に対してよりよい表現の可能性を示すことで、アイデアを修正しながら創意工夫を凝らすことができている。このような取組を継続していく中で、アイデアの深化やブラッシュアップに主体的に取り組めるような姿勢を養うための工夫を重ねていけるとよい。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 同年代の参考作品を見る機会を多くとり、「自分にもできるかもしれない」や「やってみたい」という意欲を引き出し、どうすればできるのかを主体的に分析しながら実践する取組を継続している。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。 ②年間3回の定期考査の実施をする。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間3回の定期考査の実施内容の分析 </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。 ②年間3回の定期考査の実施をする。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間3回の定期考査の実施内容の分析
<p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。 ②年間3回の定期考査の実施をする。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間3回の定期考査の実施内容の分析 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 同世代の作品や資料を参考にしながら、難易度の高い課題解決に挑戦し、自己と向き合い、知識や技能を向上させるだけでなく、見通しをもって時間配分をしたり、計画を修正したりする能力を磨くことができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の成果を得る経験やそのための活動を実践として繰り返すことができなかつたため、今後活用できる力として身についたかを確かめる機会が設けられなかつたことが課題である。 赴任した年の生徒との関係性や年間指導計画で左右されないような、年度当初の展開の工夫やICTの活用などが課題である。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項の定着を確認しながら、活用できるような題材を設定し、義務教育が土台となつてさらに発展的な学習を進めていけるような学習環境と授業計画が大切である。 今年度の活動を通して磨かれた課題解決能力として、見通しをもって取り組むことやメタ認知をしながら視野を広げて軌道修正すること、粘り強く継続して取り組むことなどの力を、さらに実践的な課題を通して伸ばしていくことが望まれる。 		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <p>自他の課題に対して自ら主体的に解決しようと既習事項を活用したり、新たに知識や技能を向上させたりしようとする生徒。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 保健体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果より、「教科の関心を高められているか」、「内容を理解しているか」という質問について、全生徒が肯定的にとらえている。高い水準で技能を身に付けている一方で、学習した内容から、自己や他者の課題を発見し、分かりやすく伝えることが課題である。 ・新体力テストでは、全ての種目で全国平均を上回っているが、運動の二極化により個人差が大きい。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】①基礎体力を向上する。 ②課題について、思考・判断し、他者に伝える力を育成する。</p> <p>【改善策】①体力テストの結果より、自己に必要な体力についてデータを示す。目標を設定し、継続的に運動に取り組ませる。 ②学習カードやICT機器を活用し、視覚的に分かりやすいようにするとともに、仲間と意見を交換する機会を設け、理解を深めさせる。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実生活に生かす運動の計画の視点をもたせ、中学校卒業後も豊かなスポーツライフを実現できるように指導している。 ・学習カードやICT機器を活用し、運動のポイントが視覚的に分かりやすいように工夫している。 ・自己の考えたことを他者に伝える機会をつくり、探求的に活動し、学習内容が定着するようにしている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。 ②授業内の実技発表をする。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②授業内の実技発表の分析 </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。 ②授業内の実技発表をする。 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②授業内の実技発表の分析
<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。 ②授業内の実技発表をする。 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②授業内の実技発表の分析 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期授業評価アンケートの結果より、「教科の関心を高められている」「授業内容を理解している」という項目について、高い水準を保った。 ・発見した運動のポイントや課題の改善方法について、主体的に考え、表現することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣の二極化が見られる。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業では、主体的に学び、健康や運動についての関心を高めることができている。継続的に指導をすることで、日常的に取り組む実践意欲を育てていく。 		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>1つ以上の運動、スポーツ種目に親しみ、生涯にわたって運動を豊かに実践する資質・能力を身に付けている。</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 技術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・学習における課題設定と、振り返りを習慣化させることが求められる。・実践的・体験的な学習活動では、全ての生徒が意欲的に取り組んでいるが、知識・技能の観点で差が出てくる生徒がいる。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・マイコンボードを使用し、プログラミング言語を活用して生物育成を計画的に実践することを通して、縦割りであった学習内容を横断的に統合する。このことで、物事を多様な視点から技術の関わり合いを想像させ、実社会の見方を深める。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りを家庭でできるようにする。・作業に遅れがある生徒には、コンピュータの操作方法を実演・助言を行い、進度をそろえる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。②ノートやワークシートで課題に気付き、解決できる能力を身に付けさせる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①課題， 考査， 授業評価アンケート②課題， 考査， 授業評価アンケート
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・振り返りシートを活用することで、製作物の課題を見返して改善方法を見付けることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・「新しい技術の活用」などの広いテーマの学習では、課題発見をすること自体が難しかった。	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・高校の情報での接続を図れるように、情報に関する技術を行っているので、プログラミング能力を育成する。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>技術に込められた意図や願いを踏まえ、技術的な根拠を基に他者と協働しながら課題解決に取り組むことができる生徒</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・既習事項を自身の生活と結びつけながら考えること。・自身の考えや意見を相手に分かりやすく伝えられるような言葉や文章等で表現できる生徒が少ない。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>「基礎的な知識の定着」, 「既習事項を関連付けながら, 思考・判断・表現する力」が課題として挙げられる。その授業改善策として, ICT機器を活用しながら, 授業初めに復習を導入したり, 小学校での題材と比較しながら内容の理解を深め, グループワークなどのお互いの意見を共有できる活動を増やしたりすることで, 考えを深めることができたようだ。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <p>既習事項をもとに, 自身の考えをまとめて表現する課題や, グループワークなどを通して内容の理解を深められるように指導していく。</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①既習事項を活用しながら, 自身の生活と結び付けて考えられるような課題を出し, 生徒それぞれに応じた適切な支援を行う。②自身の考えや意見を表現する活動や機会を授業や課題等を通して増やしていく。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①授業内での課題や実習記録, 年間2回の授業評価アンケート, 年間3回の定期考査②授業内での課題や実習記録, 年間2回の授業評価アンケート
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">①自身の生活と結びつけながら, 課題に取り組むことができた。②自身の考えや意見を課題や授業の中で表現することができた。 <p><課題></p> <p>既習事項を活用しながら根拠をもって自身の意見や考えを具体的に表現すること。</p>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・既習事項を活用して, 自身の意見や考えを表現する機会を増やす。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>既習事項を活用しながら, 根拠をもって自身の考えや意見を表現できる生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 英語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・村学力調査において、「読むこと」に関する問題の校内正答率が35.7%と低い。中でも、「長文の読み取り」の正答率が25.0%と、とりわけ低い。・全国学力・学習状況調査において、「書くこと」に関する問題の校内正答率が15.0%と低い。中でも、「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる」問題の正答率が0%と、とりわけ低い。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・「読むこと」及び「書くこと」については、令和3年度の当該の授業改善推進プランが策定されていない。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒とのやり取りを通して文章を読む目的を示した上で、文章の読み取りを行うための個別学習の時間を設ける。・新出語句や文法事項の学習の際に、授業内で同一の内容を複数の方法で複数回学ぶ機会を設け、反復学習を取り入れた指導を行う。・聞いたり読んだりしたことをもとに、相手に合った提案を書くなど、技能統合的な活動を取り入れる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①読み取りにつまずきがみられる場合、内容上あるいは表現上手掛かりとなる語句を提示する。②生徒用タブレット内のデジタル教科書を活用した個別学習や、互いに問題を出し合うペア活動、家庭学習での反復練習を通して新出語句や文法事項の学習を行う。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①年4回の定期考査②1セクションごとの小テスト
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・社会的な話題に関する説明を読んで、要点を把握する力を高めることができた。・基本的な語句の発音や意味、綴りの定着を図ることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・読み取った内容について感じたことや考えたことなどを伝えたり、相手の考えに対して質問・応答したりする力に課題が見られた。	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・文章の要点を把握するだけでなく、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりする、領域間の統合的な言語活動を工夫して設定する。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>説明文や論証文などから概要や要点を読み取り、読み取った内容を伝え合うことができる生徒。</p>	